

## 5. 海 震 報 告

昭和8年3月8日於神戸 寫 水路部, 船舶課長

大阪商船株式會社もんてびでお丸船長 山 口 正

洋上に於て地震の餘波を感じたる件

本船は昭和8年2月14日北米ロスアンゼルス港を出帆して横濱に向ふ航海の途中同年3月3日午前3時40分(當時本船時計は東經154度45分に於ける眞時を使用し居たり)推測位置北緯40度35分東經151度27分に於て突然強激なる推進機の racing の如き震動を約4分間繼續して感じたり當時の氣象及び海上の状態は左の如し。

風		晴雨計示度	天 候	温 度		波 浪	
方 向	力			空 氣	海 水	方 向	模 様
West	4	29.91	B.C.	35°	48°	West	4

船體は稍々縦動し居たりしも震動を感じし直前當時の波浪と明らかに區別し得らるゝ階級4なる「ウネリ」を西方より受けたり。

依つて直に無線電信を以て銚子無線電信局に照會したる所關東地方に於ては約3分間強烈なる地震を感じたる報知あり後報によりて東北地方の震災を知れり以上御參考までに御報告申上候也。

昭和8年3月4日 於横濱港

小倉石油株式會社 小倉丸 總噸數 7270.14 噸

船長 岸良彦一郎 運轉士 齋藤 達

昭和8年2月6日北米桑港發 横濱に向け航海中 昭和8年3月3日午前2時33分より約3分間北緯34度36分, 東經143度45分の位置に於て激震動を感じたり, この激動は東北地方東岸に起りたる地震と同種のものならん。

昭和8年3月16日 於横濱港

日本郵船株式會社 摩耶丸 總噸數 3145.25 噸

船長 濱口才次郎 運轉士 安達 秀一

昭和8年3月1日午後1時55分四日市港を出帆小樽に向け航海中3月3日午前2時32分頃推測位置北緯37度38分、東經141度36分(金華山燈臺の南方39浬水深219米)の地點で突然船體激動を感じた、丁度前進中全速力で機軸を後退した様に、寧ろそれ以上に激しかった。(當時本船は空船状態であつた)就寝中の者も驚いて皆室外に飛び出した。約3分間最も激しく其後漸次衰へて2時45分頃には全く以前に復した。動搖は上下動のみで海上は三角波で満されたがうねりは見へなかつた。當時北北西の軟風、海上は穏であつた。

昭和8年3月13日 於横濱港

山下汽船株式會社 東星丸 總噸數5484.26噸

船長 伊藤 磯吉 運轉士 河口俊巳知

昭和8年2月18日北米タコマ發横濱に向け航海中昭和8年3月10日午後5時5分(日本中央標準時4時36分)北緯39度45分、東經144度13分金華山沖に於て突如船體に激動を感じた。最初2秒間位の震動がありその後2回の微動があつた。周囲には何等の漂流物もなく種々の點から考慮するに海震と思考した。

海震に伴ひ氣象狀況に變化は來さなかつた。震度はルードルフ氏の震度階級に依る4乃至5程度。尙當時の氣象は次の通

風		天 候	雲		晴 雨 計	氣 温	水 温	海 面
向	力		形	量				
N	1	0	S. SC	9	30.26	30°	33°	Very smooth

平安丸 (日本郵船株式會社) 船長 金子文左衛門

北米晚香坡發横濱向航行中昭和8年3月3日午前2時31分より同36分(日本中央標準時)に至る約5分間左の地點に於て激甚なる海震を感知せり。

位置 北緯41度50分 東經149度30分

狀況 當初恰も機軸全速後退せし時の如き震動なりしが瞬時にして上下動甚しく羅針儀爲めに躍出せざるやと思はしめ就眠中の船員一同寢床を蹴つて室外に飛び出せし程度であつた。

天候 曇. 風向西. 風力4. 氣壓29.94.

気温 零下3度 水温1度

直ちに機関回轉數、塗水、操舵機を點檢せしも何等異狀を認めず。

得撫丸(農林省) 船長 鶴澤 榮 司 運轉士 濱中仙四郎

室蘭發大船渡に向け航行中昭和8年3月4日午前2時33分約1分間に互つて強烈な震動を船體に感じた、機関には何等變調は無かつた。

位置 北緯39度57分10秒 東經142度32分40秒。

天候 晴、風 北西輕風、海上輕波。

南方遠く電光の閃くを見たり。

同日午前9時頃より沿岸一帯に木材、水船、家屋の破片等多數の漂流物に會ひ、傳馬船2隻拾得した。

昭和8年4月11日 於氣仙沼港 船長 伊藤 哲美談

水産試験場技手 上田 正喜 聽取

異常遭遇者 宮城縣氣仙沼港島山清一所有發動機付漁船 盛進丸(50噸110馬力)乗組員一同 船長 伊藤 哲美

當時の狀況 昭和8年3月3日午前2時30分頃當時盛進丸は釜石東微北(E by N)約100哩の海區にて鼠鮫延繩漁業に従事して居つた。

當時天候快晴星の輝を見た、海上は平穩、同船機關は「ストップ回轉」の状態であつた。

異常の事實 午前2時30分頃(時刻は精確ならず)同船の沖側に於て北→南に獨樂の「うなり」の如き音響と共に「黒き何物かゞ通過する」感じを受け船體に微動を感ず。

「うなり」より3秒後「ドーン」と云ふ大音響を船より北寄りの沖合の方向に聞く。

大音響より3秒後船に大激動を感じ船體は2ツに折れるかと思はれた附近海面は猛烈な上下動をした此の大激動は約5分間續いた後次第に激動も小さくなり静まつた海水は濁らなかつた。死ぬかと思つた時だから光等は氣が付かなかつた。

小倉石油株式會社光洋丸報告

3月3日午前2時50分(標準時2時30分)北緯36度37分東經146度32分に於て約3分間強烈なる震動(上下動)を感ぜり其後約1時間して偏北西方の可なり大なる動搖起る。